

浅間連峰に舞う高山蝶 ～生息環境の保全とその意義・課題～

嬭恋村高山蝶を守る会 会長 宮崎光男

1. 嬭恋村高山蝶を守る会の概要

湯の丸高原に生息している群馬県指定天然記念物ミヤマシロチョウ、ミヤマモンキチョウ、ベニヒカゲを始めとする地域内に棲み絶滅が危惧される蝶類の保護・保全活動をしている。また、その食樹であるメギを含め自然環境の維持と保全活動にも取り組んでいる。この保護・保全活動を通して、多様性のある自然を次世代に継承できるように努めている。

●活動内容

- ① 高山蝶の保護活動として、定期的なパトロール等を行い、監視活動をする。
- ② 生息状況・生態調査を随時行い、実態把握に努める。
- ③ 保全活動として、食樹メギ等の生息環境の保全・整備活動をする。
- ④ 高山蝶や食樹等の保護・保全に関する提言や啓発のための広報活動を行う。
- ⑤ 高山蝶や食樹等の保護・保全に関わる調査・研究と関係団体との連携した活動をする。

●活動期間：6月中旬～9月中旬 晩秋（越冬巣調査まで）

●保護パトロール内容

- ①生息状況の調査 ②食草及び食樹の育成 ③周辺の環境整備（雑木の除去）
- ④捕獲禁止の指導 ⑤保護活動のPR

保護パトロールは、昭和52（1977）年、県天然記念物指定後、継続して実施している。この間、文化財調査委員、西吾妻へき地教育指導員等を中心に多くの村民が活動を継承してきている。

●嬭恋村高山蝶を守る会の発足：平成24年6月

●会員 現在21名（全員がパトロール員としての委嘱を受けている）

●担当課 嬭恋村教育委員会・嬭恋郷土資料館

2. 浅間・湯ノ丸高原に舞う高山蝶・ミヤマシロチョウ

ミヤマシロチョウは、絶滅のおそれが高い蝶の一種である。環境庁のレッドデータブックにおいて「絶滅危惧Ⅱ類」に指定されている。群馬・長野・山梨の各県では天然記念物に指定されている。

かつては本州中部の山地帯に生息していたが、各地で減少し、現在では一部の地域でしか見ることができなくなっている。残された浅間高原の湯ノ丸でも生息地が狭くなり個体数も極端に少なくなり、守るための取り組みが急務になっている。

生息の場は、標高1400m～2000mの山地で、溪流沿い・稜線・牧場などの明るい疎林である。標高の高い人里離れた場所に棲んでいるのにもかかわらず、近年になって生息域が急速に失われてきている。広域に渡って良好な生息環境がないと生きてゆくことができないため、豊かな自然環境の指針になっている。

3. 自然環境及び蝶の保全への取り組み

- ①生息環境の整備（伐採・刈払い作業 現状変更申請）
- かつては、高山に行けば普通に見られ、舞っていたミヤ



マシロチョウは、わずかな数しか見られなくなり、現在生息する区域では危機的状況になっている。カラマツの林に覆われてきたり、笹が繁茂したりして環境が悪化してきている。草原に樹木がまばらに生えるような明るい環境が食樹メギの木の成育にも適し、吸蜜植物も豊かである。笹に覆われてくると、草本植物が減り、吸蜜植物が少なくなってくる。パトロールを通し、生育環境を確認し、適正な環境整備に心がけている。

また、生息域を結ぶ通路を確保し、小さく孤立している区域を広げ、繋げることにより、良好な環境を保ち、維持していく取り組みもしている。

②個体数の調査（越冬巣数調査）と啓発のための観察会と広報活動

2016年 ミヤマシロチョウ越冬巣数 記録
2012年～2015年
湯の丸山を守る会

ポイント	2012 越冬 巣数	2013 越冬 巣数	2014 越冬 巣数	2015 越冬 巣数	2016 越冬 巣数	位置 （北緯・東経）	備 考
401	2					甲 1129-73-80	
402						甲 1129-73-80	
403		1				甲 1129-73-80	
404		1				甲 1129-73-80	
405						甲 1129-73-80	
406	2	1				甲 1129-73-80	
407						甲 1129-73-80	
408	2	1		1		甲 1129-73-80	2015 古い巣、輸2
409	2	2				甲 1129-73-80	
410		1				甲 1129-73-80	



秋から冬に越冬巣数を調べることによって、生息状況の変化を把握し、保全対策の基礎資料の蓄積に努めて

いる。また、多くの方の理解と協力を得るために観察会などを行ったり、広報パンフレットを配布したりしている。

4. 保全への課題とまとめ

課 題

- (1) ミヤマシロチョウの生息域の拡大への対策
- (2) メギ及び蜜源植物の育成等 保全環境の整備
- (3) クロマメノキの保全方法の検討
- (4) 中・長期的な活動計画 基礎データの蓄積
- (5) 啓発活動の推進と会員の増員
- (6) 関係機関・団体との連携
- (7) 会員の研修及び研究者と連携した調査
- (8) 活動資金の確保 (補助金の申請)

蝶を保護するには、その環境を保護することが大切である。幼虫の食草や成虫の餌。その蝶についての生態。天敵との関係。天敵がいなくなれば、その蝶が増えすぎ、食草が食べ尽くされて絶滅することもありえる。ふつうに生活できる自然を残してあげることである。様々な変化に気づく「たくさんの目」を養う啓発的な取り組み。自然界を多くの目で調べることにより、チョウという身近な生きものから、自然環境の変化をとらえることで、生物多様性の保全へとつなげていけると考えている。

全地球測位システム（GPS）も使ってメギの山中での正確な位置を把握し、巣を作りやすい環境を調査している。「ミヤマシロチョウを守ることが、高山の生態系保護につながる」と意義を感じている。湯の丸山はミヤマシロチョウとミヤマモンキチョウを同時に見ることができる貴重な場所である。

今後も生息状況の調査、各種保全に関する提言、地域保全団体への協力等を行いながら保全活動に取り組み、いつまでも高山蝶が飛ぶ姿が見られるようにしていきたい。